



学校現場で急激に進んだデジタル化。そこで見えたのは、黒板の内容を板書するという学びが変わり、1人1人がICT機器を手に、いきいきと学ぶ子どもたち。そして、一緒に新しい学び方・教え方に挑戦する先生たちの姿がありました。しかし、このように変わゆく環境の中で、今も昔も変わらないのは「子どもの成長を願う思い」でした。

社会全体が転換期を迎える中、学校現場もまた、戸惑いながら、前に進んでいます。糸満市で学ぶ子どもたちは、そのような熱心な先生たちから、学ぶ喜びと楽しさを知り、これから社会を生き抜く力を身につけていくことでしょう。

環境は変わり、試行錯誤が続く学校現場。私たちがその歩みを知り、寄り添い、温かく見守ることで、明るい未来を自分の力で切り開いていく子どもたちの姿が、きっと見えてくるはずです。

# 変わる学びー変わらない思いー



潮平小学校 山川 璃利香さん  
やまかわ りりか

わからぬ内容を  
調べることが楽しいです



潮平小学校 小牧 雅先生  
こまきまさし

学びをサポート!

学習意欲が増した児童の  
学びをサポート!

学校では、タブレットを使って漢字ドリルや算数ドリルをしたり、授業の振り返りを書いて、先生に送信したりしています。グループで勉強するときや、クラスメートがタブレットを黒板に写して発表をするときは、自分の答えとどこが違うかを確認して、答えの書き方を工夫しています。学校で分からぬことを、自分でタブレットを使って調べると、いろいろなことを覚えられるので楽しいです。これからも上手に使って、もっと勉強を頑張りたいです。

ICTを活用した教育では、先生の技量がとても重要となります。国は子どもたちの主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を進めています。この方針に基づき、先生たちは、これまでのICT指導という教育の形から、ICT機器を活用して児童のさまざまな考え方を聞き出し、さらにその考えを広げ、深めていくファシリテーターの役割を担う必要があります。

このような理由から、児童たちに自ら学ぶ取り組みを継続してもらうため、可能な範囲で授業の時間を削減しました。さらに、校内の研修を最低限に抑えることで、先生たちの時間的余裕をつくりだして、児童だけでなく、先生たちの主体性も育むようにしています。

児童と同じように、先生たちも試行錯誤から始まり、まずは児童と一緒にやってみる、学んでみるということを実践して、教員を改善してきました。今後もその考えを忘れずに、児童が主体的に学び、「わかる」「できる」喜びを実感する授業づくりができる環境を整えたいです。

児童と一緒に学ぶ  
先生の主体性に期待

私は「ICT機器を使用しない」という指導は行つていません。しかし、先生たちは自ら研修を提案・実施して、自身の学びを深める取り組みを行っています。また、実践したことを先生同士で共有するなど、児童のためにそれぞれが考えて取り組みを行っていることを、とても頼もしく感じています。

児童がICT機器を使うようになり、学習意欲が増したと感じています。また、紙に文字を書くことが苦手な児童も、端末でタイピングすることにより、他の児童と同じように学ぶことができるようになったことは良い影響だと思います。しかし、このような環境では、意識が端末に集中してしまうことがあるため、私たちが上手くコントロールするように取り組んでいます。教え方が変わっても、授業の基本である教科書を基に、これからも児童の学びをサポートしていきたいです。



あらかき まさき  
潮平小学校 新垣 誠 校長先生